

# 広報 うらやす

## 主な内容

施設の使用料などが  
変わりますほか …… 2  
  
浦安子ども健やか債を  
発行ほか …… 3

市の人口と世帯 人口 = 161,177人(-23) 男 = 81,006人(-2) 女 = 80,171人(-21) 世帯数 = 71,169世帯(+18) 平成20年7月末現在( )は前月比

# 食欲の秋 〜浦安名物

## 焼きはまぐり・焼きあさり

新鮮なハマグリやあさを竹串にさして焼き、甘口のしょうゆたれをからめた「焼きはまぐり・焼きあさり」は、浦安の名産です。一口食べれば、香ばしい磯の風味が口いっぱい広がります。



「暑さ寒さも彼岸まで」お彼岸にはまだ早いですが、秋を意識するようになった今日このごろ。今回は、浦安の「食欲の秋」をご紹介します。

東西線浦安駅の近くに「浦安魚市場」があります。そこで働いている宇田川正美さんに、昔の浦安の「食」について伺いました。

浦安の名産と言えば、魚貝類やのりなどですね。特に貝類は、埋め立て前の時代には、「貝の値段は浦安で決まる」と言われたほど。浦安では稚貝がたくさんとれて、養殖用として各地に出荷していたのですが、成長した貝は再び浦安に集められて、貝むきをし、築地へ出荷していたんですよ。

のりも、養殖や製造を行っている家が多くありました。わたしの親戚も、乾のりの製造を行っていて、冬にはよく手伝いをしていました。のりを干して乾燥させ、最後にのり簀からはがすときに、きれいにはがさず、わざと破ったこともあります。破れると商品にならないから、それをつまみ食いでできるんですよ。おなかやすいたときのおやつでしたね。



## ぼったら

昔の浦安の子どものおやつといえば「ぼったら」です。ぼったらは、もんじゃ焼きよりは小麦粉を固く溶きます。それにソースを混ぜ、鉄板に一気に流して焼きます。子どもたちが駄菓子屋さんやぼったら屋さんで集まって食べるときは、お小遣いの具合で、揚げ玉やキャベツを入れたり入れなかったり・・・

ほかにも、あんこを入れて巻き、黒みつをかけたものや、あんずの甘煮を巻いたものなど、デザートのようなものもあります。

### ○おうちで作ってみよう!

- 材 料** 小麦粉・水・ソース  
※分量はお好みで。そのほか、揚げ玉・キャベツなどお好みの具材
- 作 り 方** ①小麦粉を水で溶く  
②ソースを加え、味をつける(具材を入れる場合はここで加えます)  
③鉄板・ホットプレートなどで焼く

**ポイント** ぼったらは、もんじゃ焼きよりは汁の部分が少し固めなので、水を少しずつ加えて様子を見ましょう



## ところてん

関東地方で「ところてんにかけるもの」といえば、二杯酢や三杯酢といった「酢」ですが、浦安では昔から、「黒みつ」をかけるのが一般的です。まさにスイーツと言えるでしょう。

## こんにちちは市長室です。

今年も8月は猛暑で苦しみました。とりわけ8日の北京オリンピックの開幕から、さらに連日の日本選手の活躍に一喜一憂し、寝不足で苦しんだ方も多いのではと思われまます。

北京の夏が終わりましたが、開会式から人口13億人と言われる中国の人の波には圧倒されるばかりでした。浦安でも猛暑にもかかわらず、東京デイズシリーズには、連日多くの方が訪れていました。

9月が近づくと、85年前の関東大震災にちなんで防災や危機管理の記事が目につけてきますが、浦安市の防災を考えるうえで、「帰宅困難者対策」は、避けて通れない大きな問題です。

これは本市が首都東京に隣接し、利便性が非常に高く、都心など市外に勤務する市民が多いこと、年間2500万人以上の来訪者を迎える舞浜地区を抱えていることによるものです。

このことを踏まえ、今年初めから東京災害ボランティアネットワークの代表と、市の危機管理監が話し合いを重ねた結果、今年23日の秋分の日に行われる『首都圏統一帰宅困難者対応訓練』の千葉コースのゴール地を京葉線の新浦安駅前広場にすることにし、市としても全面的に後援することになりました。

国の中央防災会議も、首都圏の避難者対策と帰宅困難者対策を、大きな課題としてとらえており、首都直

下地震の被害想定の中、避難者約700万人、帰宅困難者約650万人とみられます。

今回の千葉・埼玉・神奈川・東京の都三県にまたがる統一訓練は、昨年に続いて2回目ですが、日比谷公園を4コースに分かれて午前10時にスタートします。

千葉コースは、葛西橋通りを経て浦安橋を越えて、新浦安駅前広場までの約17kmを大災害時を想定して、歩くこととなります。

約17kmの間では、「エイドステーション」と呼ばれる帰宅支援ステーションが、体験訓練を兼ねて炊き出しや給水を行い、沿道の拠点ではガソリンスタンドや、コンビニエンスストアなどの協力を得て、トイレの使用、さらに市内の被災状況などを伝える情報伝達訓練などを行うとともに、市からも備蓄してある非常食の提供や、移動防犯車の活用などを考えています。

参加は個人でも、団体でも、直前まで受け付けますので、一人でも多くの市民の皆さんの参加を期待しています。私も、問題点を探りながら当日歩く予定です。

### いっしょに歩きますか

KEY WORD

本人だけでなく、家族の誰かが、都心に限らず市外にお勤めであれば、この機会に帰宅困難者訓練を体験する価値はあると思います。ぜひ、いっしょに歩きましょう。

松崎 秀樹